

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 10月 8日

【評価実施概要】

事業所番号	4271401392
法人名	社会福祉法人 瑞幸会
事業所名	グループホーム みずほの里
所在地	〒859-1216 雲仙市瑞穂町古部乙1392番地1 (電話) 0957-77-4031

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年10月1日	評価確定日	平成20年10月21日

【情報提供票より】(平成20年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 7 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算 5,0 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建鋼板葺 造り
	1 階建ての 1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	6,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	300 円	おやつ	無料
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.8 歳	最低	74 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	よこた医院 ・ ねぎ歯科医院 ・ 愛野記念病院
---------	-------------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑に囲まれた自然の中の高台に立地している当ホームは、敷地内の特別養護老人ホームが母体施設である。広域農道と国道沿いにはわかりやすい看板が立てられており、迷うことなく到着することができる。ホーム内は、天井が高く、リビングも広々としており車椅子も対応可能である。訪問調査当日は、天窓が解放されており吹き抜ける秋風がとてもさわやかであった。今年度よりデイサービスを開始されそれに伴い、職員の増員があった。新たに看護師を採用し、より一層利用者の健康管理やケアに留意されている。地域の方々とも双方向に交流をされ、自治会にも加入された。職員の「ここに来たら癒されています」という声が印象的で、玄関先には職員の名前と写真が掲示されている。また、毛筆で書かれた「敬老に我が師と思う祖父母かな」の文字が目にとまる。季節の花が生けられており、家庭的な雰囲気が漂い、利用者職員との笑顔が印象的である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では、改善課題はなかったが、自ら2つの改善項目をあげ、改善計画シートを作成されている。「運営推進会議を活かした取り組み」、「プライバシーの確保の徹底」の2項目を改善課題とし、早速取り組みを実施されて、よりよいケアの実施、運営に反映されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、計画作成担当者、職員は自己評価の意義を理解されており、全員で話し合い取り組んでいる。7月から入職した職員にも、意義などを説明し、評価に真摯に取り組んでいる姿勢が窺える。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	今年度より運営推進会議を2ヶ月に1回開催するように改善され努められている。メンバーは、職員も含めて6名で構成されており、運営推進会議の設置の意義なども十分説明されている。次回開催日程の都合を事前に尋ねることによって、スムーズな開催に繋がっている。法人の事業についてや、外部評価への取り組み・入居者の状況などの報告をしている。9月は敬老会の際に家族会を開催し、運営推進会議としての取り組みとされていた。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会時に状況を報告されたり、1ヶ月に一度便りに写真を同封したり、3ヶ月に一度発行される法人の広報誌などを送付し、入居者の方の様子を伝えられている。また、アンケート用紙を用意して、意見や要望などをいつでも示していただけるような取組みをしているが、あまり、書面での意思表示はないとのこと、面会時や電話連絡による対話によって、意見の汲み取りを図られている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	周囲に住宅などは少ないが、併設の特別養護老人ホームの利点を活かし、そちらの納涼祭へ地域の方々を招待したり、瑞穂町の文化作品展へ作品を出展したり、地元の中学生の福祉体験を受け入れたり、中学校へ発表を聞きに行ったりと密な交流をされている。また、近くの園児がイモ掘りへ来るなど、地域の方々との交流は積極的に取り組まれている。デイサービスを開始されたことによって、通いの利用者への迎え入れや見送りをされ、日常の中で十分に地域に密着した取り組みをされている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「尊厳のある暮らし 生活の質の向上 認知症の状態の改善・進行の予防」と掲げられており、開設当時の理念を大事にされている。地域密着としても意識を持たれており、日々のケアにつながるよう取り組まれている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は掲示してあり、いつでも目に留めることができる。今年入職した職員にも、ケアを行う上で大切にしていることを、「お一人お一人を尊重し、共に寄り添う」という気持ちを持つよう理念を元に話され、理念の浸透を図っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の方より加入を勧められ、今年度より自治会に入られた。瑞穂町の文化作品展に利用者の作品を出品するなど、地域の行事に積極的に参加されている。地域の方々を招待した併設の特別養護老人ホームで行う納涼祭にも参加し、交流を図っている。吾妻町とも交流があり、中学生の福祉体験学習などの受け入れ、中学校の発表会の見学をされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員は自己評価の意義を理解し、全員で話し合い取り組んでいる。また、前回の外部評価では、改善課題はなかったが、「運営推進会議を活かした取り組み」「プライバシーの確保の徹底」の2項目を自ら改善課題とし、改善計画シートを作成し早速取り組み、よりよいケアの実施と運営に反映されている。運営推進会議の中でも外部評価について話をされたり、新任の職員にも、評価の意義などを説明するなど、評価に真摯に取り組んでいる姿勢が窺える。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より運営推進会議を2ヶ月に1回開催するように改善され努められている。メンバーは、職員も含めて6名で構成されており、運営推進会議の設置の意義なども十分説明されている。次回開催日程の都合を事前に尋ねることによって、スムーズな開催に繋がっている。法人の事業についてや、外部評価への取り組み・入居者の状況などの報告をしている。9月は敬老会の際に家族会を開催し、和やかな雰囲気の中で運営推進会議が行われた。		

グループホーム みずほの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	併設の特別養護老人ホームの関係もあり、市町村の方とは1週間に1度の頻度で連携を取られている。島原地域広域市町村圏組合との連携の下、介護教室を2月に開催された。自宅で行える介護技術やレクリエーション、健康体操などを行い、参加も多く、質疑応答の時間も取られた。今後も継続して開催したいと意欲的な意向を示された。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1か月に一度健康状態や日常の様子などを記載した報告書をご家族へ送付され写真も同封されている。通帳を預かっている方は通帳のコピーなどを送られている。3か月に1度発行される法人の広報誌は行事や新任職員の紹介の欄もあり、写真の掲載とコメント、記事があり日々の状況が一目でわかるように工夫されている。面会に来られた際にはその都度状態をお話されたり、家庭での様子などを尋ねている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先にアンケート用紙が用意されているが、あまり、意見は入らない。しかし、面会に来られた際には、十分にお話し意見や要望の汲み取りをされている。「出来ることはなんでもさせてほしい」「外出を増やしてほしい」との声には柔軟に対応されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度より、3名の新任の職員が加わり、ホーム全体が明るくなったと感じられており、利用者も「孫が来たみたい」と喜ばれている。併設の特別養護老人ホームがあり異動などは極力最小限に努めているが、今年度はデイサービスを開設したこともあり、異動、増員をされている。利用者への影響を懸念されていたが、自然に受け入れられていた。雰囲気も穏やかで、利用者の気さくな挨拶が印象的である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修問わず、積極的に研修をされている。外部研修に参加された際には、併設の特別養護老人ホームで月に一度研修報告があり、資料なども見せてもらいながら、研鑽されている。ホーム独自でも毎月勉強会を開き、ケアについても再確認する時間を設けている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島内のグループホームケア研究会に参加していたが、今年度からは雲仙市のグループホーム研究会を9月に立ち上げ、14のグループホームが参加されている。今後、職員も参加し、同業者との交流を積極的に行っていきたいとの意向を示された。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居されてから慣れるまでは、ご家族に協力をお願いしている。生活歴や気づきを尋ねたり、面会をお願いしたりして本人の不安を取り除くような支援を心がけている。今年度よりデイサービスを開始され、今後はデイサービス利用の方からの移行に繋がればとお話された。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員と利用者は共に生活する家族という意識をもたれて過ごされている。今年度は若い職員が入ったことよって、「孫のようだ」という声が聞かれ、お互いに支えあう関係を築かれている。夜勤帯に本音を話されることがあり、不安を取り除くように話を十分傾聴し対応されている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の意向の汲み取りや、ご家族から話を聞いて情報収集したり、本人の表情や言葉から汲み取れる思いや希望を聞き、職員間でも共有されている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の希望や意向を聞き、介護計画を立てられている。ご家族にも話しを聞き介護計画の説明を行い同意を得ている。又、介護計画書はご家族にも配布されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>概ね3か月に1回の見直しを行っている。状態の変化がある場合は、その都度の見直しをされている。月に1度はケアについて話し合う機会もあり、職員も積極的に取り組んでいる。</p>		

グループホーム みずほの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	今年度より、デイサービスを開始され、通いの利用者のケアにも取り組まれている。特別養護老人ホームが併設している利点を活かし、行事などには積極的に参加されており、希望される方には特別養護老人ホームでの機能訓練を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への受診の支援はもとより、ご家族が希望される病院、かかりつけ医への受診も対応している。専門医受診の際はご家族同伴などの柔軟な対応で取り組まれている。看護職員が配置されてからは、主に看護職員が対応されている。歯科診療はホームへ往診されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に看取りについての指針を説明し、ご家族の意向などを確認され同意書を作成されている。これまでにホームで終末期を迎えられた方はいないが、今後ケアを行う上で、一人一人の力になれるという思いを持っておられ、それぞれの利用者に応じた対応ができるように、再度確認したいという意向を示された。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	改善計画にシートに個人情報保護の観点から改善項目にあげられており、早速取組を実施されている。職員から利用者に対して時として不適切な声かけが聞かれる場合は、その都度、指導し理解してもらっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の体調や気分を尊重しながら、散歩や買い物など、ご本人が希望される事を支援するように努められている。		

グループホーム みずほの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	裏庭には畑があり、ねぎやシソが植えられている。昼食の団子汁にも畑で採ってきたネギが使われており、おやつには、併設事業所の裏の畑で採れたさつまいもが提供されていた。食事の準備も利用者の方も手伝われており、職員も同じテーブルにつき、和気あいあいとした雰囲気の中で食事を楽しまれており、入居者同士でも語り合っている場面もみられた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴していただけるように取り組まれている。午前中に入浴されており、季節のお湯を楽しむ支援もおこなっている。入浴を遠慮される方へは時間をあけたり、声をかける職員を変えるなどの工夫をしているが、それでも遠慮される場合は清拭に切り替えるなど、柔軟な対応をされている。また、清潔を保つだけでなく、皮膚の観察も行うように留意している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の方はそれぞれ、役割を持たれている。配膳を丁寧に行われる方、牛蒡をそがれる方、ご自分の部屋の掃除をされたりと、職員と利用者の方がそれぞれ支えあいながら過ごされている様子が垣間見える。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	2日に1度食材の買い物へ同行されたり、希望があれば、洋服等の買い物へも行かれている。朝は、ホーム付近を散策され、季節を感じられながら、会話も弾まれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、鍵をかけられることはない。玄関のドアにベルが取り付けられ、鍵をかけないケアの工夫をされている。日中はリビングに職員がいるため、見守りも十分できている。管理者をはじめ職員は、鍵をかけることの弊害を十分理解されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回火災の避難訓練を実施されている。10月に初期消火操法の大会に出場されるとのことで、意欲的に取り組まれている。他の災害対策についても、重要性を把握されており、台風等災害の恐れのある場合は、夜間帯を2名体制にできるようにされている。また、併設の事業所からの応援体制も整備されている。		

グループホーム みずほの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設事業所の栄養士の方と相談し、カロリーなどに配慮されている。水分摂取量、食事量などの個人記録はつけていないが、おおまかな量は把握されており、日々の観察から状態変化がみられる入居者の方においては、その都度記録をつけ、排泄のことも考慮に入れ、健康管理に留意されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭の方にウッドデッキを増設されている。庭に車椅子でも下りれるようにスロープになっている。リビングの窓からは自然が広がった景色が心地よく、リビング、廊下も天井が高く広々とした空間である。ソファも設置されており、それぞれの入居者の方が思い思い過ごせるように工夫されている。デイサービスを開始したことに伴い利用者が休める空間も整備されている。カーテンが設置されており、プライバシーの確保もされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローリングと畳の居室があり、各居室に洗面所がある。使い慣れた家具や道具を持ち込まれており、壁にはカレンダーや思い出の写真などが掲示してあり、それぞれの生活空間を感じることができる。		